一、次の短歌とその鑑賞文を読み、後の（1）～（4）の問いに答えなさい。【H24】

かがまりて見つつかなしもしみじみと
水湧き居れば砂動くかな

斎藤茂吉

この歌は「かがまりて見つつかなしも」と［A］で切っていますが、まだ何が「かなしも」という感動をよびさましているのかはわかりません。そして次には、水の湧き方を「ァしみじみと水湧き居れば」と捉えて、このィ激しくも、ゥ豊かでもない、ささやかな湧き水の小世界へと眼を引き寄せています。しかし、それでもなお面白いとは言いかねるでしょう。けれど「水湧き居れば」と連動して「［B］」という結句がェすわることによって、一首は飛躍的に茂吉の生命感を感取させるものへと高まってゆきます。この世の片隅に誰が見ようと見まいと、しみじみと湧く水によって動く砂の営みがあることの発見が、「かなしも」という詠嘆を深く肯かせるからです。

（馬場あき子『馬場あき子　短歌その形と心』による）

（注）かがまりて…かがんで。
かなしも…胸に迫ることだよ。
感取…感じ取ること。

（1）鑑賞文中の［A］に当てはまる言葉として適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、初句　イ、二句
ウ、三句　エ、四句

（2）鑑賞文中の――線部の「ささやかな」と品詞が同じものを、鑑賞文中の～～線部ア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

（3）鑑賞文中の［B］に当てはまる言葉として適切なものを、短歌の中から五字でそのまま抜き出して書け。

（4）鑑賞文中の═══線部の「見」の活用の種類を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、五段活用　イ、上一段活用
ウ、下一段活用　エ、サ行変格活用

一、次の俳句とその鑑賞文を読み、後の（1）～（5）の問いに答えなさい。【H25】

渡り鳥みるみるわれの小さくなり

上田五千石

俳句でいう「渡り鳥」とは、秋に北方から渡ってくる鳥のことを指しますが、この句を読んで一瞬、「あれ？」と思いませんでしたか。私は最初ァに読んだとき、「あれ？」と思って、もう一度ゆっくり読み返しました。「あれ？」の原因は、「みるみるわれのちいさくなり」の部分です。

どうして、われ＝自分が小さくなるんだろう？と読者はふと、立ち止まってしまいますよね。普通であれば、飛んでゆく渡り鳥を仰いでいるのだから、みるみる小さくなってゆくのは渡り鳥のほうでしょう。それが実際の景色ィであり、ありのままの見方といえます。

しかし、そこを反転させたのが、この作者の詩的操作であり狙いなのです。どういうことかというゥと、「渡り鳥」と最初に呟いた瞬間に、［　］、作者の心が、「渡り鳥」に乗り移っているわけです。［　］、「渡り鳥」の視点から、「われ」を見ているんですね。そこがこの句の面白いところです。視点を入れ替えることで、よりいっそう「渡り鳥」と「われ」との①遠近がはっきり見えてきます。読者も「渡り鳥」の視点を得ェて、②まるで空を飛んでいる気分を味わえます。

（堀本裕樹『十七音の海　俳句という詩にめぐり逢う』による）

（1）鑑賞文中の［　］に当てはまる言葉として適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、すると　イ、それとも
ウ、例えば　エ、要するに

（2）鑑賞文中の～～線部ア～エの言葉のうち、助動詞であるものを一つ選び、その記号を書け。

（3）鑑賞文中の――線部①の「遠近」と同じ組み立ての熟語を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、雅俗　イ、人造　ウ、遷都　エ、歓喜

（4）鑑賞文中の――線部②の「まるで」は、呼応の副詞である。呼応の副詞を含む文を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、駅は図書館よりもっと遠くにある。
イ、牧場で牛がのんびり草を食べる。
ウ、成功するまで決してあきらめない。
エ、あなたに会えてとてもうれしい。

（5）「渡り鳥みるみるわれの小さくなり」と同じ季節を詠んでいる俳句を、次のア～ウから一つ選び、その記号を書け。

ア、十六夜の天渡りゆく櫓音かな　河原枇杷男
イ、摩天楼より新緑がパセリほど　鷹羽狩行
ウ、霜柱俳句は切字響きけり　石田波郷

高知県公立高校入試過去問題（H24・25）国語〔詩・短歌・俳句編〕 解答

一、次の短歌とその鑑賞文を読み、後の（1）～（4）の問いに答えなさい。【H24】

かがまりて見つつかなしもしみじみと
水湧き居れば砂動くかな

斎藤茂吉

この歌は「かがまりて見つつかなしも」と A で切っていますが、まだ何が「かなしも」という感動をよびさましているのかはわかりません。そして次には、水の湧き方を「ア しみじみと水湧き居れば」と捉えて、このィ激しくも、ウ豊かでもない、ささやかな湧き水の小世界へと眼を引き寄せています。しかし、それでもなお面白いとは言いかねるでしょう。けれど「水湧き居れば」と連動して「 B 」という結句がェすわることによって、一首は飛躍的に茂吉の生命感を感取させるものへと高まってゆきます。この世の片隅に誰が見ようと見まいと、しみじみと湧く水によって動く砂の営みがあることの発見が、「かなしも」という詠嘆を深く肯かせるからです。

（馬場あき子『馬場あき子　短歌その形と心』による）

（注）かがまりて…かがんで。
かなしも…胸に迫ることだよ。
感取…感じ取ること。

（1）鑑賞文中の A に当てはまる言葉として適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、初句　イ、二句
ウ、三句　エ、四句

イ

初句は「かがまりて」、二句は「見つつかなしも」なのでこの短歌は「二句切れ」

（2）鑑賞文中の ―― 線部の「ささやかな」と品詞が同じものを、鑑賞文中の ～～～ 線部ア～エの中から一つ選び、その記号を書け。

「ささやかな」は言い切りの形（終止形）が「ささやかだ」となり、「～だ」で終わっているので『形容動詞』である。これと同じ品詞のものは、ウの「豊かで（豊かだ）」

（アは副詞、イは形容詞、エは動詞）

ウ

（3）鑑賞文中の B に当てはまる言葉として適切なものを、短歌の中から五字でそのまま抜き出して書け。

「～という結句」とあるのでこの短歌の結句「砂動くかな」が入る。

砂動くかな

（4）鑑賞文中の ═══ 線部の「見」の活用の種類を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、五段活用　イ、上一段活用
ウ、下一段活用　エ、サ行変格活用

イ

「見」の終止形は「見る」。この「見る」に「ない」をつけると、「見ない」となり、「ない」の直前の音が「イ段」なので、上一段活用となる。

一、次の俳句とその鑑賞文を読み、後の（1）～（5）の問いに答えなさい。【H25】

渡り鳥みるみるわれの小さくなり

上田五千石

俳句でいう「渡り鳥」とは、秋に北方から渡ってくる鳥のことを指しますが、この句を読んで一瞬、「あれ？」と思いませんでしたか。私は最初ァに読んだとき、「あれ？」と思って、もう一度ゆっくり読み返しました。「あれ？」の原因は、「みるみるわれのちいさくなり」の部分です。

どうして、われ＝自分が小さくなるんだろう？と読者はふと、立ち止まってしまいますよね。普通であれば、飛んでゆく渡り鳥を仰いでいるのだから、みるみる小さくなってゆくのは渡り鳥のほうでしょう。それが実際の景色ィであり、ありのままの見方といえます。

しかし、そこを反転させたのが、この作者の詩的操作であり狙いなのです。どういうことかというウと、「渡り鳥」と最初に呟いた瞬間に、 □ 、作者の心が、「渡り鳥」に乗り移っているわけです。 □ 、「渡り鳥」の視点から、「われ」を見ているんですね。そこがこの句の面白いところです。視点を入れ替えることで、よりいっそう「渡り鳥」と「われ」との①遠近がはっきり見えてきます。読者も「渡り鳥」の視点を得ェて、②まるで空を飛んでいる気分を味わえます。

（堀本裕樹『十七音の海　俳句という詩にめぐり逢う』による）

（1）鑑賞文中の □ に当てはまる言葉として適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア、すると　イ、それとも
ウ、例えば　エ、要するに

エ

□の後には、前の内容を要約する内容が書かれている。

（2）鑑賞文中の ～～～ 線部ア～エの言葉のうち、助動詞であるものを一つ選び、その記号を書け。

助動詞はイの「景色で」で、これは断定の助動詞「だ」の連用形である。

イ

（3）鑑賞文中の ―― 線部①の「遠近」と同じ組み立ての熟語を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

上下が対

ア、雅俗　イ、人造　ウ、遷都　エ、歓喜

ア

上下が対象　主述の関係　下が上の対象　似た意味

（4）鑑賞文中の ―― 線部②の「まるで」は、呼応の副詞である。呼応の副詞を含む文を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。※「呼応の副詞」とは、下に決まった言い方来ることを要求する副詞。

ア、駅は図書館よりもっと遠くにある。
イ、牧場で牛がのんびり草を食べる。
ウ、成功するまで決してあきらめない。
エ、あなたに会えてとてもうれしい。

ウ

（5）「渡り鳥みるみるわれの小さくなり」と同じ季節を詠んでいる俳句を、次のア～ウから一つ選び、その記号を書け。

ア、十六夜の天渡りゆく櫓音かな　河原枇杷男
イ、摩天楼より新緑がパセリほど　鷹羽狩行
ウ、霜柱俳句は切字響きけり　石田波郷

ア

※この俳句の季語は「渡り鳥」で季節は「秋」。同じ秋の季節を詠んでいるのはアの俳句で季語は「十六夜」である。

高知県公立高校入試過去問題（H26・27）国語〔詩・短歌・俳句編〕

一、次の短歌についての文章を読み、後の（1）～（5）の問いに答えなさい。【H26】

いつまでもひとつ悩みが消えなくて
こころに一本補助線引いた
大津市　野々口和仁

解決の糸口が①なかなか見つからないとき、別の視点を持ち込むことによって、「あっ、こんなことだったのか」と思えることがある。その喩えとしての「補助線」が、とても魅力的な一首だ。

せっかくなので、②補助線の比喩が、さらに生きるように、上の句の［A］も工夫してみたい。

いつまでもひとつ悩みが解けなくて
こころに一本補助線引いた

「悩みが解けない」とはあまり言わないが、補助線の比喩があるので、ちょっと③ひねった表現として成立する。と、同時に、問題がこんがらがっている感じも出せる。ますます補助線の魅力が出てきたので、この語を最大限印象づけるために、［B］にするのも方法だ。

いつまでもひとつ悩みが解けなくて
こころに一本引いた補助線
（俵　万智『短歌のレシピ』による）

（1）文章中の ――線部①の「なかなか見つからないとき」を、単語に区切ったときの単語の数を、**数字**で書け。

（2）文章中の ――線部②に「補助線の比喩」とあるが、この文章の筆者は「補助線」が何の喩えだと考えているか。それを表した言葉として適切なものを、文章中から**四字**でそのまま抜き出して書け。

（3）文章中の［A］に当てはまる品詞名として適切なものを、**漢字**で書け。

（4）文章中の ――線部③の「ひねった表現」は、ここではどのような意味で使われているか。その意味として最も適切なものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。
ア、趣向を凝らした表現　イ、要点をおさえた表現
ウ、主観に流された表現　エ、皮肉を効かせた表現

（5）文章中の［B］に当てはまる言葉として適切なものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。
ア、対句　イ、反復
ウ、体言止め　エ、初句切れ

一、次の詩と文章を読み、後の（1）～（5）の問いに答えなさい。【H27】

針は銀色

陽当りのよい縁側に坐って
久々に針を①運んでいる

針は銀色
針は銀色
歌のように心にくり返しながら
針の光をたのしんでいる

糸を布目にくぐらせる
この小さな道具の
愛らしい働き

一目一目を小さく進んで
小さな一目をくぐりぬける度に
針は　きらりっと
陽をうけて　光ってみせる

※　※　※

ある日、久々に針を持ったとき、［　］の美しさが心にしみました。

私はすらすらと詩が書ける②たちではありません。筆を持って、何時間もかけて、やっとまとまるのですが、そのまとまるまでの時間、一本の針についてもいろいろに思い考えて、書き上げた後で「ああ、このことに気付いたのだわ」という思いになります。

針の小ささにはじめて気づく思いでしたし、「一目一目を小さく進む」ということにもあらためて感動したのでした。　一目一目を小さく進みながら、③一枚の着物が出来上がっていきます。

それは私たちの日々と同じでもあって、一日一日は平凡なかたちで過ぎていても、その日々の重なりが私たちの人生を造ってゆくのです。

一日一日を〝きらりっ〟と光りながら生きてゆかなければと、小さな針から、日々の過ごし方を教えられた思いでした。
（高田敏子『暮らしの中の詩』による）

（1）詩の中の ――線部①の「運んでいる」において、「運んで」と「いる」の二つの文節はどのような関係にあるか。次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。
ア、接続の関係　イ、並立の関係
ウ、補助の関係　エ、修飾・被修飾の関係

（2）詩の中で用いられている表現についての説明として誤っているものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。
ア、第一連では、自分と針を対句で表現することで、情景を鮮明に描き出している。
イ、第二連では、心の中で反復している言葉の表現が、詩にリズムを生んでいる。
ウ、第三連では、体言止めを用いることによって、余韻を残す表現になっている。
エ、第四連では、擬態語を使って、小さな針の存在の魅力を印象的に表現している。

（3）文章中の［　］に当てはまる言葉として適切なものを、詩の中から**三字**でそのまま抜き出して書け。

（4）文章中の ――線部②の「たち」は、ここではどのような意味で使われているか。その意味として最も適切なものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。
ア、状況　イ、性質　ウ、習慣　エ、達人

（5）文章中の ――線部③に「一枚の着物」とあるが、筆者はこれに対応するものは何だと考えているか。それを表した言葉として最も適切なものを、文章中から**六字**でそのまま抜き出して書け。

高知県公立高校入試過去問題（H26・27）国語〔詩・短歌・俳句編〕 解答

一、次の短歌についての文章を読み、後の（1）～（5）の問いに答えなさい。【H26】

いつまでもひとつ悩みが消えなくて
こころに一本補助線引いた
大津市　野々口和仁

解決の糸口が①なかなか見つからないとき、別の視点を持ち込むことによって、「あっ、こんなことだったのか」と思えることがある。その喩えとしての「補助線」が、とても魅力的な一首だ。

せっかくなので、②補助線の比喩が、さらに生きるように、上の句の A も工夫してみたい。

いつまでもひとつ悩みが解けなくて
こころに一本補助線引いた

「悩みが解けない」とはあまり言わないが、補助線の比喩があるので、ちょっと③ひねった表現として成立する。と、同時に、問題がこんがらがっている感じも出せる。ますます補助線の魅力が出てきたので、この語を最大限印象づけるために、B にするのも方法だ。

いつまでもひとつ悩みが解けなくて
こころに一本引いた補助線
（俵　万智『短歌のレシピ』による）

（1）文章中の ――線部①の「なかなか見つからないとき」を、単語に区切ったときの単語の数を、**数字**で書け。

なかなか／見つから／ない／とき

4

（2）文章中の ――線部②に「補助線の比喩」とあるが、この文章の筆者は「補助線」が何の喩えだと考えているか。それを表した言葉として適切なものを、文章中から**四字**でそのまま抜き出して書け。

別の視点

（3）文章中の A に当てはまる品詞名として適切なものを、**漢字**で書け。

※最初の句が「消えなくて」で、後の句が「解けなくて」なので、工夫された品詞は動詞である。

動詞

（4）文章中の ――線部③の「ひねった表現」は、ここではどのような意味で使われているか。その意味として最も適切なものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。

ア、趣向を凝らした表現　イ、要点をおさえた表現
ウ、主観に流された表現　エ、皮肉を効かせた表現

※「補助線」（図形の問題を解くときに使う）と関連づけて、「悩みが解けなくて」と趣向を凝らした表現にしてみた。

ア

（5）文章中の B に当てはまる言葉として適切なものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。どこが変わっているかに注目すると、最後の言葉「補助線」なので「体言止め」

ア、対句　イ、反復
ウ、体言止め　エ、初句切れ

ウ

一、次の詩と文章を読み、後の（1）～（5）の問いに答えなさい。【H27】

針は銀色

陽当りのよい縁側に坐って
久々に針を①運んでいる

針は銀色
針は銀色
歌のように心にくり返しながら
針の光をたのしんでいる

糸を布目にくぐらせる
この小さな道具の
愛らしい働き

一目一目を小さく進んで
小さな一目をくぐりぬける度に
針は　きらりっと
陽をうけて　光ってみせる

※　※　※

ある日、久々に針を持ったとき、 □ の美しさが心にしみました。

私はすらすらと詩が書ける②たちではありません。筆を持って、何時間もかけて、やっとまとまるのですが、そのまとまるまでの時間、一本の針についてもいろいろに思い考えて、書き上げた後で「ああ、このことに気付いたのだわ」という思いになります。

針の小ささにはじめて気づく思いでしたし、「一目一目を小さく進む」ということにもあらためて感動したのでした。一目一目を小さく進みながら、③一枚の着物が出来上がっていきます。

それは私たちの日々と同じでもあって、一日一日は平凡なかたちで過ぎていても、その日々の重なりが私たちの人生を造ってゆくのです。

一日一日を〝きらりっ〟と光りながら生きてゆかなければと、小さな針から、日々の過ごし方を教えられた思いでした。
（高田敏子『暮らしの中の詩』による）

（1）詩の中の ――線部①の「運んでいる」において、「運んで」と「いる」の二つの文節はどのような関係にあるか。次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。

※「運んで」＋「いる」なので、補助の関係

ア、接続の関係　イ、並立の関係
ウ、補助の関係　エ、修飾・被修飾の関係

ウ

（2）詩の中で用いられている表現についての説明として誤っているものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。

ア、第一連では、自分と針を対句で表現することで、情景を鮮明に描き出している。
イ、第二連では、心の中で反復している言葉の表現が、詩にリズムを生んでいる。
ウ、第三連では、体言止めを用いることによって、余韻を残す表現になっている。
エ、第四連では、擬態語を使って、小さな針の存在の魅力を印象的に表現している。

※この詩の第一連には、自分と針を対句で表現している部分はないので、アの説明が誤りとなる。

ア

（3）文章中の □ に当てはまる言葉として適切なものを、詩の中から**三字**でそのまま抜き出して書け。

※作者が針の何に感動したのか（何が心にしみたのか）を考えると、「針の光」である。

針の光

（4）文章中の ――線部②の「たち」は、ここではどのような意味で使われているか。その意味として最も適切なものを、次の**ア～エ**から**一つ**選び、その記号を書け。

ア、状況　イ、性質　ウ、習慣　エ、達人

※「たち」には、「生まれつき」「性質」「気質」等の意味がある。

イ

（5）文章中の ――線部③に「一枚の着物」とあるが、筆者はこれに対応するものは何だと考えているか。それを表した言葉として最も適切なものを、文章中から**六字**でそのまま抜き出して書け。

※「一枚の着物」の次の文に「私たちの日々と同じでもあって」とある。

私たちの日々